県からのお知らせ

「おおいたユニバーサルデザイン推進基本指針」を策定しました

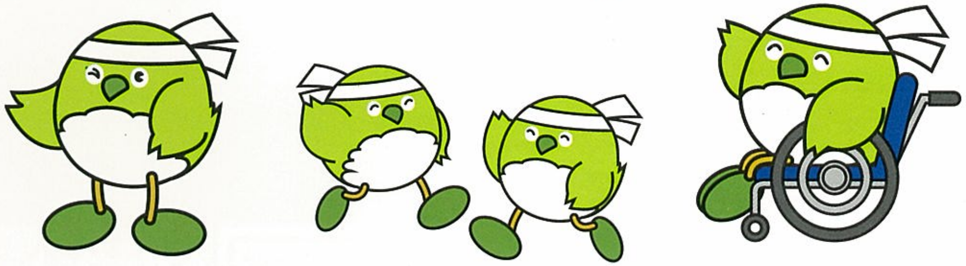
「こころ」・「まち」など5つの視点で構成し、県民、企業・団体、行政が連携・協働してユニバーサル社会を実現するための目安としています。

大分県のホームページからダウンロードできます。
（PDFファイル、全65ページ）
http://www.pref.oita.jp/12000/ud_shishin/

大分県福祉保健部福祉保健企画課
○電　　話　097-506-2622
○ＦＡＸ　097-506-1732
○Ｅメール　a12000@pref.oita.lg.jp

おおいた・福祉のまちづくりハンドブック　2007年1月発行

おおいた・福祉のまちづくり ハンドブック



大分県

大分県では、ユニバーサルデザインを推進しています
～すべての人との共生をめざして～

“ユニバーサルデザイン”ってなに？

“万人向け設計”と訳されています。
「すべての人が利用しやすい、
すべての人を思いやるまちづくり、
ものづくりを行う」という考え方です。

すべての人への思いやり

お年寄り

体の不自由な人

妊婦さん

子ども連れ

子ども

外国人

精神障がい者

知的障がい者

内部障がい者

色　弱　者

ケガをしている人

どんなものがユニバーサルデザイン？

みなさんの身近にあります。

くるま
専用車いすに乗ったまま乗降可能！

洗濯機
皆さんおなじみのななめドラム。

手すり
昇るときには力を入れやすく、
降りるときにはすべりにくい。

い　す
立ち上がりがラク。正座もあぐらも。

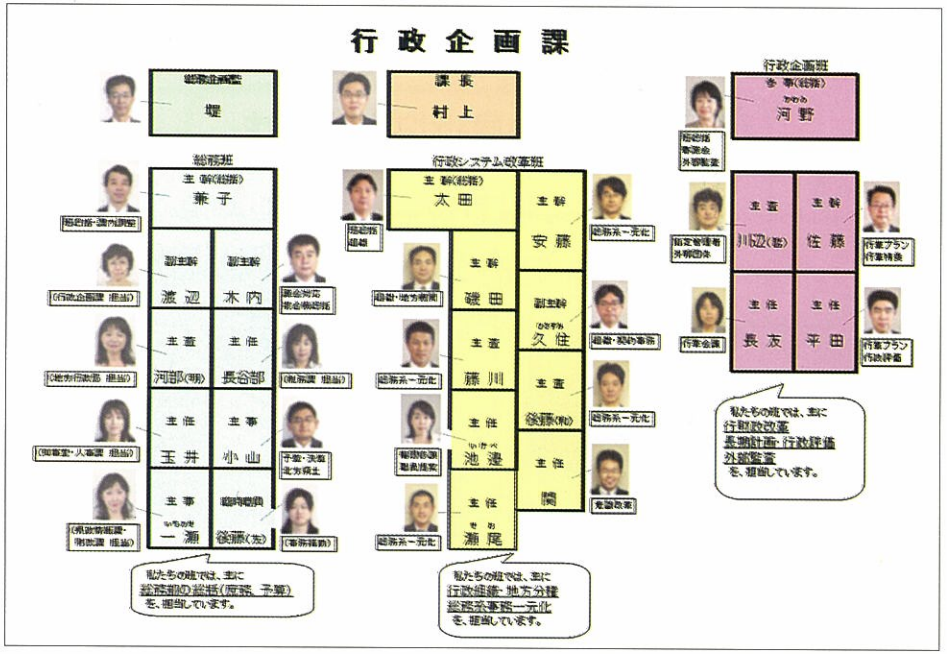
県職員ユニバーサルデザイン推進サポーターの養成

毎年30名を養成し、各職場でいろいろな取組みが行われています

来庁者にやさしい配席図の掲示

県庁内の廊下に掲示しています。「だれにとってもわかりやすいものに」

- 班ごとに色分け
- 写真付き
- 名前にふりがな
- 各自の仕事を紹介



来庁者にやさしい案内標識の掲示

庁舎玄関の写真です

- 階ごとに色分けした標識
- 階段にも掲示
  →目的地までスムーズに行くことができます
  (大分県北部振興局)

小中学校へのユニバーサルデザイン出前授業

平成18年度は36の小中学校で実施しています

写真やイラストで説明しています

1クラス単位や学年単位、ときには全校児童の前でおはなしします。

実際にユニバーサルデザイン製品を触ってもらいます

ユニバーサルデザインの文房具に触れてどんな思いやりややさしさがあるのかを体感してもらいます。

ユニバーサルサービス研修会の開催（旅館・ホテル）

大分県旅館ホテル生活衛生同業組合、日田市隈温泉街などで実施しました

車いす体験

「砂利の上は介助が難しいな・・・」

すべてのお客様に分け隔てのないサービスを

ユニバーサルサービスの講師を派遣しています

アイマスク体験

「目が不自由って大変なことなんだ」

お年寄り体験

「う～ん・・・。字が書きにくい」
（厚めの手袋、白内障ゴーグルをつけて疑似体験）

受講した人の感想

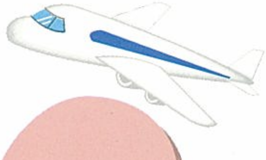
- 「これからは、お年寄りや障がいのある人にも喜ばれる旅館づくりをしていきたい。」
- 「声かけやお手伝いの大切さがわかり、自信ができました。」
- 「お年寄りが書きやすいようなチェックイン用紙に作りかえます。」

ユニバーサルサービス研修会の開催（交通事業者）

大分航空ターミナルで実施しました

講義「ユニバーサルサービスとは？」

「公平に・自然に・さりげなく」



すべての空港利用者に思いやりサービスを

アイマスク体験

手すりを触ってもらって、スピード感を確かめてもらった後に一緒に乗ります

お年寄り体験

「黄色の文字が見にくいな・・・」

受講した人の感想

- 「お客様がどういった感覚で空港内を歩いているのかがわかりました。」
- 「目の不自由な方をエスカレーターで介助するための方法がよくわかりました。」
- 「介助が“押しつけ”にならないよう、同じ目線に立ってお客様の気持ちを尊重します。」

ちょっとだけボランティア養成研修会の開催

まちかどなどで困っている人に対して、適切な声かけやお手伝いができるよう県民のみなさまに学んでいただく研修です。日出町などで実施しました。

楽しく学びます

ママの勉強中は、託児ボランティアさんにご協力いただきました！

クロックポジションの実践※

「3時の方向にお味噌汁がありますよ」

車いすの広げかた

「手をハの字に広げましょう」

※「クロックポジション」とは、目の不自由な方に、ものの位置を時計の方向でお知らせする方法です。

受講した人の感想

- 「車いすに乗ったときに、見える風景が低いということに気づきました。」
- 「実際の食事でクロックポジションを勉強できたことがよかったです。」
- 「学んだことを、ぜひ家族や友人に話してあげようと思いました。」

おおいたユニバーサルデザインフェアの開催

平成18年度は「人権啓発フェスティバルおおいた」の会場で開催しました

11の企業や団体から、文具や食器などたくさんのUD日用品が出展されました

ユニバーサルデザインのまちづくりワークショップの開催

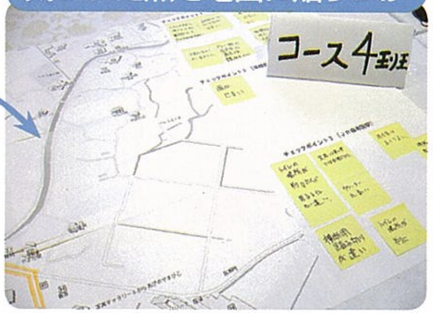
大分市、別府市、由布市で開催しました

あらゆる人の立場に立って

①=お年寄り ②=車いす利用者 ③=視覚障がい者 ④=妊婦

ユニバーサルデザインの視点からまちを点検

気づいた点を地図に貼りつけ



意見交換

思いやりのまちをみんなでつくりましょう！

自然に、自由に移動することができるまちになるといいな

おおいた・福祉のまちづくり賞

県民だれもが安心して自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加することができるまちづくりを推進し、建築物等のバリアフリー化や福祉活動に関する県民の理解と関心を深めるため、他の模範となる優れた取組みや活動を行っている方々を表彰しています。

施設部門

「大分県福祉のまちづくり条例」に定める整備基準に適合している次の県内の施設を対象とします。

第Ⅰ部門：ショッピング施設
第Ⅱ部門：医療施設、金融機関
第Ⅲ部門：宿泊施設、飲食店、文化・スポーツ・レジャー施設等
※国及び県の公共施設や福祉・保健関連施設は除きます。

活動部門

高齢者、障がい者等が快適に、安心して暮らすことができる福祉のまちづくりの推進において他の模範となる活動を対象とします。

活動例

①高齢者や障がい者等にやさしいまちづくりへの理解を深めるための普及啓発活動
②高齢者や障がい者等の外出を支援する活動
③高齢者や障がい者等が快適に買い物などができるまちづくりのための一体的な取組み

施 設 部 門

【第Ⅰ部門】ショッピング施設
「ドコモショップ金池店」
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州大分支店（大分市）

幅が広く、勾配がゆるやかなスロープ

「テレビ電話システム」
言葉によるコミュニケーションが難しい来店者に配慮し、専任の担当者が、手話、外国語（英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語）で対応するテレビ電話を導入しています。

受付カウンター
車いす利用者などに配慮し、足元に幅広い空間を確保しています。

車いす利用者や、聴覚障がい者、外国人など、さまざまな人が利用することを想定したやさしい店舗づくりに加え、従業員が「サービス介助士」の資格を取得するなど、ソフト面での取組みも評価されました。

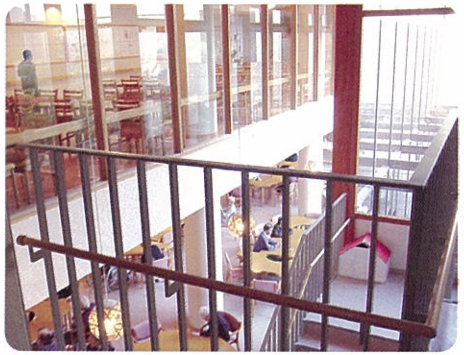
平成17年度「おおいた福祉のまちづくり賞」受賞者紹介

施 設 部 門

【第Ⅱ部門】医療施設
「向井病院」 医療法人 慈愛会（別府市）

待合室の畳敷きスペース
足が不自由な患者さんなどのために。

病室入口のドア
植物のタペストリーを配置して親しみやすく。



明るく、開放的な病棟
木材を多用し、1，2階を吹抜けにしています。

屋外広場の花壇
車いす利用者も草花に触れることができます。

安全でユニバーサルな空間づくりをテーマに、さまざまな工夫がされています。広く、明るいスペースの確保、転倒してもケガをしにくい材質をとりいれた屋外広場など、患者の立場に立った病院づくりが評価されました。

施 設 部 門

【第Ⅱ部門】医療施設
「日出児玉病院」 特定医療法人 瑞木会（日出町）

エントランスホール
明るく、暖かみのある雰囲気です。

診察室の前の廊下
広いスペースにより、安全を確保しています。

病室のデイスペーステラス
家族や見舞客とゆっくり談話できます。

利用者動線のわかりやすい病院づくりをめざし、採光やスペース確保の面で工夫を施しています。また、病室に日当たりのよいテラスを設けるなど、温かい空間づくりをしている点も評価されました。

施 設 部 門

【第Ⅲ部門】宿泊施設
「杉乃井ホテル」 株式会社杉乃井ホテル（別府市）

コンシェルジェカウンター
腰をかけてゆっくりと手続きができます。足元が空いているので車いす利用者にもやさしいです。

多目的トイレ

音声対応自動寝返りベッド

バリアフリー対応展望家族風呂

「身体障がい者とともに暮らしあう家族」のために、障がい当事者によって監修された「グッドタイムフロア」（本館4階）が、家族三世代でゆっくり過ごせるフロアとして、利用者に好評であることが評価されました。

活動部門

「大分県立竹田商業高等学校」（竹田市）

竹田バリアフリーマップ
夏休み期間中に、竹田市のバリアフリーの状況を調査し、結果を1,000枚のマップにし、竹田市社会福祉協議会に贈呈しました。マップは、福祉施設や観光施設、官公庁窓口などに配布されました。

県立竹田養護学校での「げんきまつり」にて
競技の補助をしたり、子どもたちと一緒に楽しんでいます。

「竹田バリアフリーマップ」は、おもな観光施設も紹介しているため、実用性が高く、「共に生きる地域社会をめざして」を目標に、障がい児（者）と一緒になって楽しむボランティア活動を継続している点も評価されました。

平成17年度「おおいた福祉のまちづくり賞」受賞者紹介

活動部門

「厚板ＯＢ会」（大分市）

会員のみなさん

ふうせんバレーのサポートの様子

フライングディスク大会でのサポートの様子

長年にわたり、さまざまな福祉イベントや、福祉施設の行事などにボランティアとして参加し、会員のレベルアップのための研修等にも積極的に取り組んでいる点が評価されました。2008年のおおいた国体・障がい者スポーツ大会におけるボランティアとしての活躍が期待されています。

車いすマーク駐車場のこと、知っていますか？

ココ以外では駐車できない人がいます

ドアを全開にして乗り降りします

一般駐車場（幅：2.5m）では乗り降りできません

一般の人はココに停めないでください！

車いす利用者が駐車して車いすに乗り移るまでの流れ

撮影協力
原野彰子さん（別府市在住）

❶ 車を停め、ドアを全開にします

❷ 後部座席から前席へ車いすを持ち上げます

❸ 車の横に車いすを降ろします

❹ 車から車いすに乗り移ります